

市長と50地域との懇話会 地域の皆様のご発言（抜粋） ※2021(R3)年6～8月実施

1 （仮称）未来都市構想に関すること

（1）コロナ禍の中で考えたこと

- ・コロナ禍のような危機に瀕して、改めてさまざまなことが後手に回っていたとかベストでなかったと気づく。
- ・コロナ禍に限らず、今後どんな危機が来るか、それに対してどう対応するかを今から考える必要がある。

（2）構想に必要な視点

- ・岐阜市の目指す姿は、自分たちが暮らす岐阜市の素晴らしさを実感することと理解した。
- ・今後人口が減少していく中で、産業振興策、税収確保策は重要である。
- ・岐阜市をいいところだと思ってもらい、人を集め、金を集める視点が重要となるのでは。

（3）期待

- ・子どもも高齢者も夢を持てるようなまちづくりを期待したい。
- ・実のある構想実現に大いに期待し、支持していきたい。

（4）財政的裏付けの必要性

- ・構想を着実に実施していくためには、財政的な裏付けも必要。その際、あれこれやるのではなく、岐阜市らしいものをメリハリつけてやっては。

2 オール岐阜のまちづくりに関すること

（1）現状認識

- ・自治会の加入率や投票率が低いのは無関心層が多いから。
- ・地域活動に大人が参加しないのは残念。意識改革が必要。
- ・まち協アンケート結果で他人任せという意見が多い。自分ごととして捉えてもらうためどうすべきか悩んでいる。
- ・自治会活動をする中、地域においてお互いを大事にし、支え合う気持ちがなくなりつつあると感じる。
- ・自治会、まち協、各種団体が一体となり、地域を支えようという気持ちがないとまちづくりが進まない。
- ・昔は青年会があった。そのメンバーが今自治会活動をしている。青年会がない今、後続を期待できない。

（2）オール岐阜のまちづくりについて

- ・オール岐阜のまちづくりの基礎にあるのは、一人一人を大事にする、みんなちがってみんないいという考え方だと思う。
- ・支え合う気持ちが自治会活動を大事にすることに繋がる。相互扶助の大切さを学べる場があるといい。
- ・若者が集まり地域のために何ができるかを話し合えば地域を大事にする心が育つ。そんな取組があるといい。
- ・住民の意識を変えるのが重要と考え、当地でクリーンレンジャーを立ち上げ、ごみ拾いに取り組む予定。

- ・中学生が地域でボランティア活動をやってくれるが、その先に繋がる活動があるといい。
- ・地域の担い手確保策として、例えば、PTA→体育振興会→自治会といったレールが敷かれているとよいと思う。
- ・自治会活動を全員参加で進めていくことが重要。
- ・行政にお願いするだけでなく、地域も自分ごととして取り組んでいかなければならない。
- ・これからの岐阜市を考える際、若い世代の意見も大事にしてほしい。
- ・「市民一人ひとりが主役」はまさにそのとおり。非常によい言葉。そうなるように具体的にどう取り組めばよいのかをわかりやすく示してはどうか。
- ・オール岐阜のまちづくり、シビックプライドの醸成は大事。前者の「人とまちの成長・発展の促進」はこどもファーストの観点からも評価。

3 シビックプライドの醸成に関すること

(1) 岐阜市のよさを知る

- ・岐阜市民は意外と岐阜市のよさをわかっていない。岐阜市のよさを発信すべき。
- ・大多数の市民は、金華山や柳ヶ瀬に惹かれてでなく、暮らしやすいから岐阜市を選んで住んでいると思う。
- ・ふるさとを好きになり、自慢できるようになれば、岐阜市を自慢できるようになる。
- ・岐阜市の優れたところを見える化したら、住み続けたいまちになるのでは。
- ・子どもが岐阜市のよさを知って、将来住みたいと思えるような取組を。
- ・転勤族に小学校・中学校等の思い出を残してあげれば、岐阜をふるさとと思ってもらえるのではないかな。
- ・子どもたちが豊かな自然の中で遊び、大人になっても思い出が残る、そんな取組があるといい。
- ・コロナ禍で祭りを開催できないが、子どもたちがふるさと岐阜への想いをもち、育つ施策があるといい。

(2) 地域のよさを知る

- ・自分は、この地域が好きだから大事にしたい、皆にもそう思ってもらいたいと考え、自治会活動をやってきた。
- ・岐阜市に愛着を持って住み続けてもらうには、自治会単位の地域のよさを広げていくことが大事では。
- ・各地域で資源を活用して活性化を図る取組を全市に広げると、全市が活性化し盛り上がるのではないかな。
- ・花いっぱい運動をやっている。地域活動の中で自分のまちを好きと思えるようになることが重要。
- ・子どもに地域の祭り等行事が楽しかったという思い出を作ってもらえば地域が好きになる。意識づけが大事。
- ・小中学校で原三溪講話をやっているが実に素晴らしい人だ。他の地域でも、地域に貢献した偉人の話を。

(3) 人の繋がりを大事にする

- ・地域に根付き貢献する気持ちを持った若い人が増えてほしいが、何かいい方法はないかと

悩んでいる。

- ・人付き合いがないと住む所はどこでもよくなる。温かい人間関係・コミュニティがあると住みたくなる。
- ・子どもも大人も挨拶する地域となるよう運動を進めたい。シビックプライドによるまちづくりにも繋がる。
- ・自治会や水防団に入ったのはメリットでなく楽しさや繋がりを求めて。楽しく活動すれば新たな加入者を期待できるのでは。

(4) シビックプライドの醸成について

- ・シビックプライドの象徴となるものがほしい。市でブランドのようなものを設けてシビックプライドを醸成するとよい。自治会も今後シビックプライド醸成をやらないといけなと思った。
- ・花火、尚子杯、策伝大賞等、岐阜ならこれだ！という魅力の発信を。
- ・シビックプライドを自分で醸成するのはなかなか困難。シビックプライド講座の存在を聴いて知った。このように手軽にわかるものがあるとよい。
- ・市のシビックプライドの取組が、部署によってまちまちなので、取りまとめを考えては。

4 デジタル化・DXに関すること

(1) 人との繋がり方

- ・従来のコミュニティは接触型で発展。コロナ禍を経て、非接触型のまちづくりとしてどんな方法があるのだろうか。
- ・人に共感する力を大事にしながら、人とデジタルが共存できる仕組みが必要。
- ・コロナ禍でもタブレットPCを上手く活用することで温かい双方向のコミュニケーションが成立すると実感。
- ・学校でタブレットを使っているが相手に表情が伝わり難いと感じた。心の繋がりが薄れがちだがどう守っていくかが大事ではないか。
- ・自治会を盛り上げるにはアナログ的に集まって何かやることも大事。その中でまちづくりの体制ができる。

(2) 情報格差（デジタルデバイド）

- ・スマホを持たない高齢者にデジタル化を進めていくのは難しいのではないか。
- ・コロナワクチンの予約ができずに病院に並びに行った高齢者がいると聞いた。デジタルを使えない人への対応も必要と感じた。
- ・高齢者でデジタルに疎い人はどんどん取り残される。そうした人への対応も考えるのはいいこと。
- ・防災に関する情報をデジタルで発信されても高齢者には扱い難いので、そのことも気にかけてほしい。
- ・デジタル化を急ぎ過ぎず、丁寧に進めることが大事。
- ・地域のデジタル化を進められたらいいが、地域独力では難しい。
- ・デジタルに縁遠い高齢者への配慮としてスマホ教室などはどうか。
- ・高齢者はスマホを上手く扱えない。スマホ教室をやってくれるとワクチン接種予約等の際助かるのでは。

- ・「情報格差に丁寧に対応」に賛同。地域でスマホ教室をやり、達者な高齢者を情報リーダーにしては。その情報リーダーが公民館でスマホ教室を展開すれば、デジタル化が進み、公民館活動も活発になる。
- ・市のデジタル担当課が、老人クラブの高齢者等がデジタルに親しめるように支援してくれるとよい。

(3) デジタル化・DXについて

- ・デジタル化を、スピード感を持ってトップダウンで積極的に進めれば都市の発展が目立つものとなるのでは。
- ・市庁舎に来なくても用事を済ませられるようなデジタル化なら便利だと思う。
- ・デジタル化に期待しているが、同時に個人情報保護をしっかりとってほしい。
- ・デジタル化を進める際、セキュリティ対策、高齢者への配慮、データの確実な保存に意を払ってほしい。

5 持続可能で選ばれるまちに関すること

(1) 「持続可能で選ばれるまち」について

- ・人口が減少し自治会運営が困難な地域がある。人をいかにして集めるかが非常に重要。
- ・人口が減り続け、地域を維持できなくなりつつある。新しい人が越してくる仕掛けを。
- ・若い子育て世代が、岐阜市に住みたいと思えるまちにすることが大事。
- ・「子育てと雇用を両輪とするまちづくり」は大変重要なテーマ。平易な言い方での説明となっており、よいと思う。取組の更なる推進を。
- ・選ばれるまちになるためには魅力づくりが必要。地域の魅力をPRすることで移住する人が増えてくれる。
- ・各地域で魅力あるものをつくり、人を集める取組があるといい。
- ・公民館のプラごみ講座がよかったので、自治会で自分たちは何ができるかを考える講座を実施予定。
- ・学校で勉強していることは2030年までに解決すべき社会の課題に繋がる、という感覚を大事にしたい。

6 教育・子育てに関すること

(1) コロナ禍の中で考えたこと

- ・コロナ禍でコミュニケーションが課題とされたが、それは自分と異質な人と関わる能力のあることが前提で、そのためには地域が学びの場を設けることが重要。草潤中に限らず、さまざまな人と関われる学びの環境があるとよい。

(2) 子どもの命と学びを守る

- ・子どもたちに、命が大事だということを教えてほしい。
- ・学校に馴染めない子どもを減らしていくことは大事。
- ・草潤中のような不登校の子どもへのケアを地域でもできるとよい。

(3) これからの学びのあり方

- ・小学校で異年齢学級を導入した。違うことは当たり前と学ぶことで多文化共生を受け入れやすくなる。

- ・学校問題はコミュニケーション不足から。教員間、子ども間、教員・子ども間のコミュニケーションを。

(4) 教員の負担軽減・働き方改革

- ・教員が随分と多忙な様子。教員がゆったりと授業ができる環境を整えれば、学校もよりよくなる。
- ・レディスサポーターが給食・掃除を手伝っている。教員の負担を減じ本業に専念させたい。

(5) 教育を基盤としたまちづくり

- ・地域に子どもが過ごせる場所を設けると、いじめや不登校が減っていくのではないかと期待。
- ・新教育大綱の内容は、SDGsの貧困、ウェルビーイング、ジェンダーにも繋がる。多くの市民に伝わるといい。
- ・新教育大綱を知ってもらいたいと思い、PTAの運営方針を、大綱に沿った内容に改めた。
- ・学校運営協議会で新教育大綱の勉強会をやっているが、まちづくり協議会で話してもらうと、より広がるのでは。
- ・小学校家庭教育学級に次年度新入生保護者を招く予定。他者と繋がって家庭教育を盛り上げていきたい。
- ・中高生が普段から防災訓練など地域と繋がりを持つ活動を行い、いざというときに活躍できるといい。
- ・学校で災害教育を実施して、一人では生きていけないと教えてはどうか。
- ・センターゾーンや構想の内容等を副教材「わたしたちの岐阜市」等に入れて、子どもたちが学べるといい。
- ・国は23年度から中学校部活動を週末のみ地域へ移行というが、受入体制はあるか。また、学校部活動の良さがなくなることを懸念しているし、健全育成面からも不安を感じる。
- ・中学校部活動の制度改革に関しては、「子どもの教育に皆で当たる」という視点が大事。
- ・今は学校統廃合を積極的に進めていないが、子どもが随分減った。長期的に見て何らかの調整が必要では。
- ・学校施設更新を先送りしないでほしい。

(7) 幼児教育

- ・未就学児への教育が弱いのでは。どこで子どもを育てたいかの視点は重要になってくる。

(8) その他教育

- ・岐阜市は教育が非常に充実していると認識。
- ・1人1台タブレットの早期配布、体育館エアコン整備など子どもの教育環境整備に感謝。
- ・タブレットPC配布はよいことだが、際限なく触り続ける子も。使える機能制限等、使い方を考えるべき。

(9) 子育て

- ・市の子ども未来部が、子どもの安全を重点的に守るとのメッセージを出せば、皆が真剣に考えると思う。
- ・地域の子どもは可愛い。大人は子どもから元気を貰っている。地域の子どもへの声掛けを続けていきたい。

- ・岐阜市で子育てしたいという若者や夫婦が増えるとよい。
- ・岐阜市で子どもを産み育てる人を増やしたい。出生率を上げる必要もある。
- ・子どもがいないと防災支援体制なども成り立たない。子どもを産み育てる環境づくりを意識するのが大事。
- ・若い世代を大事にしないと国・地域が亡ぶ。子育て環境を整備し人口減少幅が縮小する施策の実施を。
- ・子どもの数を増やすには、支援金支給よりも、子育てに理解のある勤め先を増やすことが重要ではないか。
- ・子ども議会は優れた取組である。知らない子どもが多いので参加者が増えるように広く周知してほしい。
- ・子ども議会に中高生も参加可能とし、子どもの意見を取り入れれば、将来の岐阜市の担い手が育成できる。

7 健康・福祉・医療に関すること

(1) コロナ禍の中で考えたこと

- ・日赤奉仕団に所属し養護老人ホームでボランティアをやっているが、コロナ禍で活動が思うようにできなかった。
- ・当地は外国籍の人口が多い。市国際課・保健所が連携して外国人勤務先へのコロナ情報提供に努めてくれる。

(2) 健康

- ・老人クラブと合同で、フレイル対策となる地域ふれあいクアオルトウォーキングを実施することとした。

(3) 福祉

- ・高齢者単身世帯が増えてきた。地域で支えるのは困難と感じている。対策がなされるとありがたい。
- ・包括支援センターに関し、窓口連携会議で共有した事例を基にどんな支援が必要かを検討できるとよい。
- ・当地には80歳以上が1割超いっしやる。自治会と地域包括支援センターが高齢者等の情報を交換する場を設ける予定。
- ・老人クラブの課題は、メンバーの高齢化が進んでいること、加入者がいないこと。
- ・老人クラブの会員が増えないのは、魅力が伝わらないのと、リーダーの養成に課題があるから。

(4) 医療

- ・地域の高齢者が増える中で、今後、医療が課題になってくると認識。
- ・当地では、地元の病院の協力を得て、遠隔医療サービスのモデル事業を行う予定。
- ・病院に行かなくても受診できる、薬も貰えるようになるとよい。
- ・優れた医療機関と豊かな自然を活用して人が療養に集まるまちを目指してはどうか。

8 市民協働に関すること

(1) コロナ禍の中で考えたこと

- ・コロナ禍にあって地域コミュニティを築き上げるのは難しいと感じた。
- ・コロナ禍で、高齢者、子どもの保護者などと繋がる会話がやりたいと痛切に感じた。
- ・地域コミュニティを作る際に一番大事なのは会話だが、コロナ対策で公民館等公共施設を使えなかった。
- ・コロナ禍でPTAや子ども会の会合が開催されず、地元の川清掃を周知できなかったため、人が集まらなかった。
- ・コロナ禍において今後集まりができる方法を考えたいが地域でリモートをやっていくのも難しいと感じる。
- ・コロナ禍で会議ができない状況下で、できることを模索している。
- ・コロナ禍で地域の行事が中止になったが、こういうときでも住民が交流できる方法を考えてほしい。
- ・コロナ禍で自治会として何をやればよいか、住民アンケートで意向を探り、話し合おうと思っている。
- ・コロナ禍が落ち着いて、地域で清掃活動やお祭りができたらいいと思う。現在は開催基準が悩み。

(2) 地域コミュニティへの想い

- ・支え・支えられる自治会、互いに寄り添う社会を作っていきたい。
- ・人の繋がりがキーワード。人の繋がりをどう作っていくか。
- ・自治会と各種団体の連携を広げる必要性を感じている。
- ・自治会の必要性は「コミュニティの力」に求められるのでは。
- ・地域を若い人に担ってもらいたい。
- ・若い世代が越してきてくれるといい。高齢者と若い世代が共存できるまちづくりに取り組む必要がある。

(3) 地域の担い手の高齢化や後継者不足

- ・自治会には、高齢化、孤立、「加入の意義がない」と言われる問題があると知ってほしい。
- ・高齢化で自治会を維持するのが困難になりつつある。
- ・高齢者が多い自治会班を他の班と統合し、若い世代を混ぜようという話も出てきている。
- ・自治会役員の後任選任に協力が得られず苦慮している。
- ・青少年育成市民会議など、いずれの各種団体も担い手の高齢化、後継者不足の悩みは同じ。
- ・自治会に入らない人が増えており地域は人材不足。一人がさまざまな役員を兼務。負担軽減が望まれる。
- ・個人主義の考え方が普及し、行事に参加してもらえない、役員の担い手がなく辞めるに辞められない。
- ・時間と余裕がある限られた人が地域活動を担っており、その先行きに不安がある。
- ・自治会加入率が下がり自治会だけ頑張っても地域づくりをまとめるのは難しい。
- ・自治会にしてもまち協にしても、ボランティアの限界を超えたと感じる。

(4) 人との繋がりの希薄化を感じる

- ・高齢者も、自治会との関わりが負担になるならやめようか、となる。
- ・当地は人口増が著しいが、知らない人も増えてコミュニティが希薄になり、コミュニティのあり方は難しいと感じる。

- ・人々の繋がりが薄れていると感じる。地域コミュニティの繋がりを大事にすれば共助にも繋がっていく。
- ・自分がどこの町内会、自治会のエリアに住んでいるかを言えない若い人が増えてきた。
- ・何回も足を運び自治会に加入してもらい6割に。将来、若者がボランティアを含めやってくれるだろうか。
- ・自治会加入率60%なら、残り40%の意見は聴けていないということ。
- ・マンション住民が自治会に加入しない。市が自治会に依頼する業務は将来維持できなくなると思う。
- ・マンションに新しく越してきた住民と、従来から戸建てで住んでいる住民はどうしたら融合を図れるか。
- ・中心市街地の商業エリアにマンションが沢山建つようになった。自治会加入のメリットは何だろうか。

(5) 加入メリット論

- ・自治会の必要性や加入のメリットをよく訊かれる。
- ・自治会加入を勧誘してもメリットがない、また消防団に勧誘しても忙しいと言って断られる。難しい時代。
- ・非自治会員は加入のメリットに気づかず、生活にも不便を感じない。転居してきた人は自治会に入る必要がないと思っている。入るメリットをアピールすることが必要。特典を用意すれば加入する筈。
- ・岐阜市では大きな災害が発生していないため、自治会のありがたみがよく理解されていない。大きな災害が発生するまで、自治会のありがたみを理解してもらうことを、放置していいのかと思う。
- ・マンション住民が自治会に加入しない。加入メリットは防災含む共助。自治会の強化を。
- ・自治会に入っていない人には、防災、福祉などの情報が届かない。個人主義の風潮の中、どうするか。
- ・敬老会祝い品や広報ぎふを配布する際に、自治会員でない人の扱いをどうするかを悩む。
- ・町内の繋がりが弱いと感じる。自治会非加入世帯に広報を配る等加入世帯増やす努力をしている。
- ・自治会はチラシ配布など市を補完する役割も。市と共に活動の意義、魅力を知らしめたい。
- ・岐阜市民は、基本、自治会員になるという方策を考える時期に来ているのでは。強制は困難ではあるが。
- ・岐阜市からも自治会加入を呼びかけてほしい。加入のメリットを市から発信すれば、加入率の問題が改善するのではないか。
- ・共助の考え方が薄れ、自治会の加入率が下がりつつある。加入率を上げたいので、市の後押しを願う。

(6) 自治会のあるべき姿

- ・自治会活動を続けていく上で、自治会のあるべき姿を示すことが必要。
- ・市と各地域が、真剣に自治会のあり方を話し合う場を設けられないかと思う。
- ・自治会のあるべき姿が示されていれば、自治会長も、自分が地域のリーダーだと思って頑張れる。

- ・若い人が参加しやすい自治会のあり方を考えてほしい。

(7) 地域活動の活性化へ

- ・自治会加入率低下やPTA等各種団体の活動低調等は、社会全体で人間関係が希薄になってきているから。自治会加入率の問題を論じると問題が矮小化される。背景の関係の希薄化から議論して問題解決すべき。
- ・自治会加入率が低迷する理由は、役をやるとか時間を取られることが嫌だから。運営の工夫も必要ではないか。
- ・今は自治会活動できないが将来はできる人を含めて皆が参加できる、役員になれる仕組みを考えては。
- ・岐阜市・地域のよいところを皆さんに伝えることが大事だが、団体の役員は通常1・2年で交代してしまう。
- ・新役員が旧役員に自分たちがやってきたことを繋ぎ旧役員がフォローするような仕組みを作りたいと思う。
- ・自治会員にごみ袋を配布し喜ばれた。そうした特典があれば加入率が上がるのでは。
- ・自治会のメリット例の一つとして、岐阜市の徽章をプリントしたごみ袋を配布するのはどうか。
- ・ひとり親家庭から子ども会に入りたいと相談されたので、自治会費の半額を免除したことも。
- ・地域活動は人の繋がりから始まる。親同士の繋がり強化、又は子どもの時分から参加を促す取組を期待。
- ・子どもがいる世帯は近所とお付き合いしたほうがいい、と伝えていってはどうか。
- ・次世代を対象に地域の核となる人材育成をして、若い世代に繋いでいかないといけない。
- ・平日にPTA活動したくても勤務先への気兼ねがあるが、子育てへの理解が進めば暮らしやすくなるのでは。
- ・農地が宅地化され新しく引越してきた若い世代は、地域に何があるか、また、自治会の存在を知らない。自治会として、開発業者とまちづくりについて話すべきか、まちづくりをどう考えたらよいかとも思う。
- ・夏祭りの際に当地の各種団体を紹介するパネルを掲示し、地域を盛り上げていきたい。
- ・柳ヶ瀬以南マンション在住者には名古屋通勤が多いが、地域活動してもらうことで住み続けたいまちになる。
- ・当地では全戸配布アンケートを実施し、それを基に2030年までのまちづくりの方向性を検討して決めた。
- ・全戸アンケートでボランティアを募り「助け愛隊」を編成し、10月から取り組んでいく。
- ・現在は忙しくてボランティアに従事できないが将来やる意欲のある人をボランティア人材バンク化したい。
- ・買い物難民化した住民に対して宅配、移動販売、ボランティアで対応しているがまだ十分な状況ではない。
- ・「自治会について思うこと」アンケートを全戸にポストインしたところ、加入者が増えた。

(8) まち協

- ・これからの地域活性化にまち協はぴったりの組織。市はまち協設置を推奨し、それを中心

に進めるのか。

(9) 外国人との共生

- ・当地では自治会に加入している外国人はいない。日常の接点もない。しかし自治会に参加してほしいと思う。
- ・自治会加入率が低い中、外国人が民間アパートを含め多く住んでおり、広報をどうするかは悩みの種。
- ・外国人が地域と共生できるように行政も注力を。
- ・外国人に自治会に参加してもらうため、活動内容を母国語で紹介するチラシを配布する等しては。
- ・外国人に市民運動会などの行事に参加していただき、交流を進めている。
- ・外国人との間でごみのトラブル等があると市国際課に相談し、外国語で案内を作成してもらっている。

(10) 公民館とまちづくり

- ・公民館を中心としたまちづくりをしていきたい。
- ・公民館の市長部局所管替により、地域コミュニティの中心としての位置づけがより明確にされると期待。
- ・公民館について、まち協を中心に地域コミュニティの機能を発揮できるような位置づけを考えてほしい。

9 防災に関すること

(1) 災害時要支援者の情報共有

- ・土砂災害ハザードマップを自治会単位で区割りして各戸配布している。
- ・ハザードマップ等の全戸配布はありがたい。現在、地域で要支援者へのアンケート結果を取りまとめ中。
- ・地域防災隊の組織化、見守り愛ネット（災害時要支援者を名簿化し支援者が日頃から見守り）を実施する。
- ・民生委員等と異なり自治会長は避難困難者情報（名前・住所）を持っていない。支援をどうすればいいか。
- ・支援が必要な避難困難者の情報をマッピングしたものがあるだけでもいいと思う。
- ・災害時に非自治会員の安否確認をするのは難しい。特に、災害弱者に対するケアはできないと思う。
- ・高齢者単身世帯は自治会から離脱する傾向に。災害時に支援を要する筈の方を支えられなくなることを懸念。
- ・自治会員でない高齢者は防災の情報を得られず、災害時に取り残される。声掛けをしてはいけないか。
- ・アパート・マンションが多く自治会加入率が低い中、災害時の非自治会員対応をどうすればよいか。
- ・災害時に、自治会に加入していない人を無視していいとは思わないが、加入する人は今も少ないのが現状。
- ・市が「自治会員でない方に対してもここまでは情報共有してください」と言ってはどうか。

- ・高齢者が行方不明となった際に、市から個人情報をもられれば地域で探せる。地域に個人情報提供できないか。
- ・市の敬老会用名簿を災害時に活用したいが、要援護等の具体的状況が付されていないのでその用途には役立たない。
- ・当地で作成した名簿を一元化しようと話し合っているが最終的には市のデータとのマッチングが必要。
- ・自治会の個人情報取扱は難しい問題。住民の反発も。集めていい、使っていい情報を市が明らかにしては。
- ・地域住民の、地域のために何かしなければならないという意識が希薄になってきている。
- ・当地では災害時に全56自治会の安否確認の報告が本部に届く体制を構築した。デジタル化を含め改革を実行中。
- ・土砂災害特別警戒区域で高齢者が多く、各戸が離れ共助に不安。店も遠い。市が当面の食料を配布しては。

(2) 避難所

- ・避難所の対応能力には限度があることを広報し、自己の備えを強化すべきことを真剣に考えてもらっては。
- ・災害時、自治会未加入者も公民館に避難する。普段地域と関係を持たない人とうとうに接触することもある。
- ・当地の中学校は土砂災害特別計画区域内にある。定期的に安全確認をして地域の安心確保に努めてはどうか。
- ・金公園を再整備するそうだが、災害時の一時避難場所として地域外の人を収容することを考えているか。
- ・災害時、名古屋からの通勤者が帰宅困難者になる。草潤中校舎を利用して泊まれるようにしてはどうか。

(3) 防災の担い手

- ・消防団に若い人が入ってこない。若い人を集めるよい方法、参加し易い消防団のあり方で悩んでいる。
- ・消防団員が高齢化しつつあり、今後の担い手確保が悩み。
- ・消防団員の負担軽減に努めてはいるが、負担が減ったからといって引き受けてくれるわけではない。
- ・消防団員・水防団員が少ない状況の下では、将来、2つの団を統合することを考えないといけないのでは。
- ・女性防災士が継続して研鑽・勉強できる場がほしい。
- ・防災士の資格取得者が自治会連合会の下で活躍できる仕組み・組織づくりを考えてほしい。

(4) 防災その他

- ・子ども時代から災害に関することを学んでいけば、そうした積上げが地域の防災力として成果に現れる。
- ・防災無線は地域が繋がる手段の一つ。繰り返し放送することが大事。

10 環境に関すること

(1) ごみ出し

- ・自治会員でない人がごみ出しのルールを守らないことがある。
- ・多くの人が自治会員になれば、当番でごみステーションを管理する中でルールを認識し、ごみ出しのルール違反も減るのでは。
- ・自治会員でない人のごみを片付けるのは自治会員で、不公平とを感じる場面も。解決策を考える段階にあるのでは。
- ・自治会に入っていない人のごみ収集のあり方を考えてはどうか。
- ・自治会員でない人用のごみステ、会員資格に関係なく使えるごみステを作ってもいい。
- ・自治会員でない人のごみトラブルがあっても市は答えようがなく苦勞している。引き続き考えていく外ない。
- ・高齢者単身・夫婦世帯が増え、ごみ出し支援が必要になるのではないか。近所に助けを求められない人も。
- ・ごみ出し支援を地域のボランティアがやっている都市もある。岐阜でどういう体制・支援が可能か検討を。

(2) ごみ袋の有料化

- ・岐阜市のごみ出しルールは他都市に比して厳しくない。細かく分別させればよいし、有料化してもよいと思う。
- ・分別や有料化が、ごみを減らすことに繋がり、収集・処分の効率化にも繋がる。
- ・ごみ袋を有料化し、岐阜市の財源に充ててほしい。
- ・ごみは有料化してもいいと思う。

11 産業・労働・交流に関すること

(1) 「働く場」「雇用」

- ・岐阜に住んでもらうためには雇用が重要。どの産業を育てていくのか。
- ・企業を誘致し、雇用を増やして人口を増やすことが大事。
- ・住み続けたいと思うまちとなるためには働く場のあることが重要。岐阜市にはあるのか。
- ・人口減少・少子高齢化の中で岐阜に働く場がないと若い人は戻ってくれない。シビックプライドだけでは不十分では。
- ・まちづくりの基盤として産業があるべき。
- ・働く場があれば若い人は戻ってくる。市は働く場に関する情報発信をして若い人を呼び込んでほしい。
- ・岐阜市を住みたくするまちとするために、企業誘致を進めて雇用の拡大を図ることが重要ではないか。
- ・働く場を求めて愛知県に流出してしまう。働く場があれば岐阜市に住み続けたくするのである。
- ・大都市に出て行った若者が戻ってくるように、岐阜市の雇用に関する状況と取組をアピールするとよい。
- ・高齢化が進むと地域が成り立たない。若い人に定着してもらうためには地域に働く場を作る施策が必要。

(2) 農業

- ・後継者不足、耕作放棄地増、かと言って農地処分も困難。何か活性化策を。
- ・網代の農業従事者が激減している。耕作放棄を防止する策はあるか。
- ・食糧は重要。農業を岐阜市の発展に繋げてほしい。

(3) 観光

- ・市の魅力を上手く宣伝し、観光客を高山等へ逃すことなく留めてお金を落としてもらうための政策が必要。
- ・岐阜の知名度は低いが、金華山や長良川は魅力的。それらを上手く活用すれば岐阜に来てもらえるのでは。
- ・観光にかかる発信のセンスを磨き、工夫を考えてはどうか。
- ・他自治体と連携して岐阜市の観光資源を全国にアピールしては。
- ・鶯飼のユネスコ無形文化遺産登録を。
- ・岐阜市の金華山や鶯飼は観光客が多い金沢兼六園ほど知られていない。金沢と異なるあり方があるのかも。
- ・息子と鶯飼に行った。初めて見たがすごく感動した。こうしたものを引き継いでいきたい、発信したい。
- ・ふるさと納税の返礼品として鶯飼観覧船に乗ってもらうのはどうか。観光の目玉にもなると思う。
- ・鶯飼も一度見ればもう十分という人も。岐阜市の魅力を示すなら、県とタイアップすることが必要。
- ・岐阜大仏や埋もれている観光資源を活用して観光客を呼び込んではどうか。
- ・鶯飼屋町は鶯飼由来の場所。そのことをアピールして地域おこしに繋げたい。市も鶯飼伝承館等でPRを。
- ・中山道に関しては歴史文化基本構想等がある。歴史・文化を大事にしてほしい。
- ・日本遺産認定が再審査に付されるということだが納得いかない。信長公居館跡などをもっと活用しては。
- ・花火大会。昔は景気がよく協賛多かったが今は新聞購読者少で主催者の負担大。市民要望には応えたいという気持ちも。

(4) スポーツ

- ・スポーツ少年団は、複数の小学校の子どもを集めないと編成できない状況。
- ・体育振興会役員の引受け手がない。特に若手。メリットが必要では。今は無償だが手当を出しては。
- ・市内に総合スポーツ施設があれば、賑わい・交流が生まれるのでは。
- ・市の知名度を上げるため、有名人を招聘し、参加・体験型のスポーツイベントで人を呼び込んではどうか。
- ・スポーツクラブ運営に不安。会費収入から施設借上料と事務員給料を賄っているが借上料の負担大。
- ・地域スポーツの事務局を一元化してはどうか。

12 まちづくりに関すること

(1) まちづくりにかかる考え

- ・投資を分散せず中心部に集中しコンパクト化図るべき。郊外が置いてけぼりになる懸念も。
- ・市は中心市街地や金華山・長良川しか大事にしないのか。豊かな自然を有する郊外をもっと大事にすべき。
- ・隣接市町は発展を続けている。市内の遊休農地も増えてきた。この際調整区域での開発を可としてほしい。
- ・農地9割が集約済。農業も大事だが、農家含む地域としては道路沿いを開発してもらい人を呼び込みたい。
- ・市の南部地域では名鉄高架、国道21号線高架事業等が予定されているが今後のまちづくりの展望は。
- ・市の南西部地域が人口減少の歯止めとなっている。市はしっかり南部を見ているとのメッセージを。
- ・国道21号線の整備は市全体の問題。市のまちづくりの中に南部地域をきちんと位置付けてほしい。
- ・市は、中心市街地だけでなく周辺部のまちづくりをどうしていくか、方向性を示してほしい。

(2) 中心市街地

- ・中心市街地から郊外まで地域特性を活かしながらまちづくりのストーリーを示すとよい。
- ・センターゾーンの「つかさのまち～岐阜公園」を直線で結び、線上に見るべき歴史資産を置いてはどうか。
- ・庁舎跡等に歴史を説明する看板等があれば、市民がまちに馴染め、まちなか博士風が取組ができるのでは。
- ・名鉄高架に係る開発を期待している。
- ・長崎屋の跡地をイベントができる広場や空間にしたら、賑わいと呼べるのではないか。
- ・住みよいまちは利便性が高い。中心市街地の空き地を駐車場にすれば買い物に来てくれるのでは。
- ・毎日ガラスル35建設の進捗を眺めている。まちの風景が日々変わっていくのを楽しみにしている。
- ・JR岐阜駅北口正面の西側の建物が古いので気になる。
- ・問屋町は昔から代り映えしないとを感じるが、再開発のビジョンはあるか。
- ・中心市街地の再開発については、問屋町のエリアも前向きに進めてほしい。
- ・自転車を駐輪しても有料であるなど、JR岐阜駅辺りは使い難いと感じる。今後の再開発の中で考えてほしい。
- ・姫路は駅前を再開発して地下街等を造り観光客を増やした。岐阜も「変わったな」と思えるまちづくりを。

(3) 公園

- ・岐阜公園の整備に力を入れてほしい。
- ・ペットとゆったり過ごせる公園の整備を。

- ・子どもが遊べる公園が少ない。子育てに関わる公園整備、環境整備がなされることが望ましい。

(4) 交通

- ・コミバスの利用率が低い。サポート便も。ただ高齢者は増えている。改善方法はないか。
- ・コミバスは利用者少で赤字だが高齢者・障がい者にとって大事。実績を基に見直しするらしいが存続を願う。
- ・コミバス1日乗車券は一のエリア内ではしか使えない。エリアを超えて使用できる方法を考えてほしい。
- ・高齢者の外出手段確保策として、小型モビリティ等できめ細かな交通網をつくってはどうか。
- ・カート等小型モビリティでまちなかを動けるようにしてはどうか。
- ・カラフルタウンのチョイソコは、今は利用者が少なくても、将来必要になってくると思う。
- ・郊外のバス代は中心部よりも著しく高いので中心部並みにしてほしい。
- ・バス代が高く、高齢者おでかけバスカードを何回も使えない。
- ・高校生のバス定期代が高く家計の負担に。市内で遠距離通学する高校生への助成はあるか。
- ・バス料金が安い。市内均一料金かそれ以上でも構わないので料金を抑制して移動の機会を増やせないか。
- ・まち中と均一料金で回る循環線を作してほしい。そのためにも自動運転の推進・実現を。
- ・コミバスで国道まで簡単にいられるのでその先の幹線を走るバス料金を下げる方法もあるのでは。
- ・公共交通幹線バス停から一定距離内に移住なら補助金交付する制度を導入しては。郊外でも移住者増期待。

(5) 安心して出歩けるまち

- ・高齢者が安心して出歩ける安全な道路を整備してほしい。
- ・車の無謀な運転が児童や高齢者の安全を脅かしている。
- ・実施困難と承知しているが、通学路の安全を確保するにはガードレール設置しかないと思う。
- ・ブロック塀倒壊の危険個所がまだ残っている。
- ・長良川沿いの道をバスや自転車が安全に通れない。安全な道路を整備してはどうか。
- ・バス代が高いので自転車に乗っているが、自転車道が途中までしかなく、車と並走するのは怖いし危険。
- ・自転車道整備についての考え方は。
- ・団地内の歩道は狭く自転車が通れないし、中心部まで出たくても途中の交通量が多く躊躇する。
- ・運転免許証を返納した後認知症になる人がいる。外出の機会は重要。自転車で活動しやすいまちづくりを。
- ・センターゾーンにアクセスするバス料金を下げる等、高齢者等が取り残されないための取組は考えられないか。

(6) 空き地・空き家

- ・独居高齢者が亡くなり多くの宅地が駐車場化。人が住み、使える用途を考えてほしい。
- ・空き家の増加を懸念している。対応の必要性を感じる。市はどのように対応していくのか。
- ・当地では住民が高齢化し、若い世代が減って、自治会の担い手がいない。空き家も増えてきたと感じる。
- ・空き地を利用して高齢者を集めて何かできないかと検討中だがなかなか難しいと感じる。
- ・当地は高齢化の進行と空き家対策が課題と認識。市はどんな空き家対策をしているか。
- ・空き家が増えてきた。リノベーションのようなものが必要ではないか。
- ・市内の空き家等を活用し交流サロンを作ってもらえると、交流が生まれ、まちの魅力が向上するのでは。

(7) 市営住宅

- ・エレベーターのないところがあるが、高齢者や車椅子利用者に何か配慮できればいい。
- ・階段を上るのが辛い。荷物を持っていると途中で休憩しつつ上ることも。
- ・4階に住んでいる方がいるが、柔軟に低層階への転居を認めてはどうか。

(8) その他

- ・当地は百ヶ峰等健康寿命延伸活動に適した場所が多い。そういうものを活用し活気あるまちにしたい。

13 行政運営に関すること

(1) 市職員と地域との関わり

- ・地域住民と地域在住市職員がコミュニケーションできる仕組みをつくり、地域と行政を繋いでほしい。

(2) 市の人材育成・人材確保

- ・コロナ禍で市職員の人材育成、人員確保の重要性を痛感。災害にも対応可能な人材育成、人員確保を。

(3) 財政

- ・人口が減れば、税収が減って市政が持続可能でなくなるのではないか。
- ・市内事業所の本社が在東京だと税収もそちらへ行ってしまうが、法人税を多く獲得する政策はあるのか。

(4) 公共施設等マネジメント

- ・公共施設等の更新にお金がかかると思うが対策はあるのか。
- ・コロナ禍では、施設が沢山あっても、使われなければ無駄になってしまう。
- ・郊外の我々はまち中の公共施設を利用できない。郊外への施設整備を増やせば、我々も利用できるようになる。
- ・土砂災害計画区域内の公共施設について、老朽化でなく防災の観点から建替え等を優先する考えはあるか。

14 全般に関すること

(1) コロナ禍の中で考えたこと

- ・コロナ禍で集まれず、各種団体のやる気が下がっている。どうモチベーションを高めるか

が悩み。

(2) 人口減少・少子高齢化

- ・人口減への対策はあるのか。
- ・当地の問題は市内50地域のうち2番目とされる高齢化。少子化も、今年の小学校入学生が32人と少ない。
- ・人口減少対策をきちんとやらないと、税収が減り、歳出が増え、住む人が減る悪循環に。
- ・今後人口が減り、税収が減る中で、市民が自分たちにできることは何かを考えていく必要がある。
- ・地域の人材育成は難しい。消防団・民生委員の成り手がなく我々も高齢で自営業。後継なしでは辞め難い。
- ・各種団体構成員は高齢化し後継が不足。ボランティア人材バンクで若い世代を取込み後継者育成に繋げる。

(3) 財政

- ・税収を増やすための取組が弱いのではないか。
- ・まちづくりには財源の裏付けが要るが、岐阜市は大きな企業・工場が少ない印象。税収等は大丈夫なのか。

(3) 地域

- ・市や地域のことを理解し難いのは、当事者が発信をしないから。相互のコミュニケーションが重要。
- ・市職員と地域住民が岐阜市を好きになり、市と地域、地域住民どうし相互発信することが重要。
- ・公民館を、市職員が常駐しテレワークで勤務しつつ住民と交流する場として、まちづくりの拠点としては。
- ・市が自治会に依頼する色々な仕事を負担と捉えて、メリットがないから自治会加入を止めよう、となる。
- ・自治会員でない人もごみを捨て、福祉サービスを受け、災害時に面倒を見てもらえる。・自治会に加入してもメリットがなく負担だけで、入らずとも行政サービスを受けられるなら誰も入らない。
- ・市は、自治会連合会長が地域のさまざまなことに関しリーダーシップをとれるような権限・組織づくりを。
- ・高齢者が自治会や老人クラブを抜け、地域で、防災で孤立していく。どう付き合っていけばいいのか。
- ・防災、広報、ごみ出し等は非自治会員ではアクセス困難。非会員でも地域と繋がる手段があるとよい。
- ・安否確認に限らず、一つの情報を単発に終わらせず膨らませる、或いは次の取組に繋げることが重要。
- ・市とまち協がタイアップして、地域の自然等の資源を活用してまちづくりを進める、と打ち出せるといい。

(4) まちづくり

- ・市が通り一遍の施策を進めるのではなく、地域の実態に合った施策を進めていくことが必要

ではないか。

- ・高齢者が住みよい、子どもたちも将来戻ってきたいと思えるようなふるさとづくりができるといい。
- ・岐阜県の魅力は全国の中でも低い。小手先のまちづくりをやっても若い世代には住んでもらえない。
- ・若い世代が東京から岐阜に戻りたくなるには、岐阜にもっと魅力のあることが必要。

以上